

大阪大学 薬友会だより

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6 大阪大学薬学部内 大阪大学薬友会

薬友会会長ご挨拶



薬友会会長
萬年 成泰(9期)

昨年11月には戦後初の本格的な政権交代があり、これまで以上に様々な影響がわれわれに及ぶ1年になりましたが、薬友会会員の皆様にはご清祥にお過ごしのことと拝察いたします。

さて、この間の薬友会ですが、一つの節目の年になりました。10月31日には薬学部創設60周年の記念行事が盛大に執り行われましたが、その一環として昨年の会報で予告しましたように、産官学の諸方面において第一線で活躍の同窓生4名の方々による講演会が催されました。予想を超えた多くの出席者の方々には、最新の薬事行政と新医薬品、ジェネリック医薬品、OTC医薬品の三業界のトップによる業界トピックスや画期的な新薬誕生秘話の紹介に十分ご満足いただけたのではないかと思います。

また、これに合わせ、4年ごとに行われる薬友会総会を年1回開かれる理事会と共に開催いたしました。両者は、重複する部分が多いので併せて内容をご報告いたします。報告事項では、薬友会会員名簿が発行されたこと、薬友会だよりの発行と今後の計画、会計状況が報告されました。議事では、4年毎の役員の改選が審議され、薬学部(薬友会幹事会)から会長及び副会長は現役員を推薦する旨報告があり、審議の結果原案どおり可決されました。理事については、会長一任となりましたが、一部ご退任の方を除き基本的に前期理事に再任していただくと共に、空白の期からも新たに理事に出ていただくべく選任を進めているところであります。

理事会では、薬友会の活性化に関し、活発なご発言がありました。中でもホームページの必要性和薬友会名簿の不備に関するご指摘は重要なものでありました。ホームページについては、開設するだけでなく、内容を充実させ常にアップデートして会員に役立つものにしないとすぐに見放され、以降見る方はいなくなるのご経験談もありました。小林研究科長からは薬学部もホームページを重要と捉え、充実させてきたので、薬友会も内容の濃いホームページを作ってくれば併せて同窓生だけでなく企業や受験生などにも大いに役立つ魅力的なものになるので歓迎するとのご発言がありました。また、薬友会名簿については会社の合併があったのに、それに伴う新社名が記されていないなど今後改善しなければならない点が多くあり、危機的状況にあることはご指摘のとおりであります。以上より、これらの重点課題の改善を図るべく重内副会長をリーダーとするワーキンググループを発足させることになり、2010年度の理事会で対応案につき報告してもらうこととしました。それに基づき改善策の策定と実施を新年度以降行っていく予定であります。ただ、これらの改善を行っていくためには、独立行政法人化以降一段と忙しい薬学部に余りにも依存しすぎている現状を改め、薬友会がもっともっとこれに関わり、協力していくことが必須であります。役員のみならず、会員の方々のご尽力も大いに期待しているところであります。よろしく願いいたします。

大阪大学同窓会連合会につきましては、少しずつではありますが着実に会員数を増やしており、5月1日に開催されましたホームカミングデイには昨年よりはるかに多くの会員が同窓生、西川善文前日本郵政株式会社社長の興味深いご講演とそれに続く懇親会に参加されました。また、昨年12月には関東支部会が発足し、薬友会では大江副会長が協力され、懇親会には300名ほどの阪大卒業生が参加され盛会でありました。さらに、関東地区では学士会館内に設けられている大阪大学連絡事務所を、新たな規約改正により今後、同窓会も使用することが可能になりました。費用の面など有利な点があると思われますので関東地区における薬友会支部会、同期会などに活用されることをお勧めいたします。大阪大学後援会(財団法人)につきましては、法人格を公益法人(51%以上が公益事業活動)とするか一般財団法人とするかを選択する必要が法制上生じたため、審議の結果一般財団法人とすることが決定され、現在移行手続きに入っている所であります。

独立法人化に伴い、大学の實力は卒業生を含む全学(ここではオール阪大)として評価されるものになりつつあります。こうした大学間競争の激化は、いずれ卒業生の社会での住み心地の良さにも影響を与えかねません。卒業生の皆様の薬友会、同窓会連合会および後援会へのご理解、ご支援とご協力を重ねてお願いする次第であります。

終わりに、薬友会諸氏の更なるご発展と御健康をお祈り申し上げます。

2009年度版の薬友会名簿ができました!卒業生への配布を始めました。

2009年度版の薬友会名簿お申し込み方法

昨年、「薬友会だより」を送付させて頂いた際に、名簿販売の案内と振込用紙を同封させて頂きましたが、今回改めて希望される方は、卒業年度・氏名・フリガナ・旧姓・郵便番号・住所・電話・FAX・E-Mail・勤務先を明記の上、同封の振込用紙にてお申し込みください。お振り込みを確認後に、名簿を送送します。

研究科長ご挨拶



薬学研究科長・薬学部長
小林 資正 (22期)

薬友会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと存じます。薬学部・薬学研究科を代表致しまして薬学部の近況のご報告をさせていただきます。

昨年度もご紹介しました様に、薬学教育改革により、大阪大学薬学部は平成18年度に、高度な薬剤師の養成を目指した6年制学科(薬学科:定員25名)と、薬学研究者・薬学・環境衛生技術者の養成を目指した4年制学科(薬科学科:

定員55名)の2学科制に再編成されております。そして、卒業すると薬剤師国家試験を受ける受験資格が与えられる薬学科学学生の第1期生が今年5年生になりました。昨年に新営された医療薬学実習棟での事前学習(予備訓練)を経て、全員が実務実習の受講資格としての共用試験に合格し、これから2.5ヶ月間の病院実習と2.5ヶ月の薬局実習を受講しようとしているところであります。

また、昨年度の補正予算で採択されて、薬学研究科に最新鋭の研究用分析機器類「オンデマンド型高度分析支援システム」(2.5億円)が導入されました。さらに、文科省の特別経費をいただいて、全国立大学薬学部14大学をとりまとめた大阪大学薬学部が事業実施主体となる、6年制学科の高学年教育システムを構築するための6年間の教育プログラム「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」が今年度から開始されます。

一方、主な教員人事の動きとしては、昨年の10月に、先に定年退職されました東 純一先生(臨床薬効解析学分野)の後任教授に准教授の藤尾 慈先生が選考され、また今年の3月末に馬場明道教授(神経薬理学分野)と山元 弘教授(細胞生理学分野)が定年退職されたのを受けて、新しい教授選考が進められております。

最後に、昨年10月31日にホテル阪急エキスポパークにおいて、薬学部創設60周年を記念する薬学部と薬友会の合同による記念式典と記念講演会ならびに祝賀会を開催致しました。記念講演会では4名の先輩同窓生によるご講演をいただき、祝賀会では鷺田清一総長をはじめとするご来賓の他、多くの同窓生にお集まりいただきまして、薬学部創設60周年をお祝いさせていただきました。

同窓会だより

13期同窓会

鷹見 文隆

我々13期生は昭和40年の卒業で、蛭池時代の一学科制の最後の卒業生です。2年に1回開催しており、会員58名中21名が参加され、卒業後早や44年が経過しましたが立派な参加率と喜んでます。ほとんどが定年退職後の悠々自適あるいは専業主婦の生活を送られています。数名はまだ社会の第一線で活躍しておられます。

懇親会前に訪れた神農さん、くすりの道修町資料館や適塾は、くすりと大阪大学の源流を知る上でも興味ある史跡でした。意外と初めて見学された方が多く、企画としてもよかったかなと自画自賛しています。

メイン行事の懇親会は阪大中之島センターで行いました。最初に大阪大学薬学部の田中さんに「薬学部の6年制化」を講演いただき、大変勉強になりましたが、4年制で卒業できたことにほっとしています。後、久々に近況など語らいながら秋の夜長に旧交を温め、親睦を深めました。



写真は
後列左 堀、田内、田中、岸本、山内、的場、山下、青木、日比、新熊、浅井、鷹見
前列左 中田、森村、谷村、村田、木村、仮家、南、保田、森本

16期クラス会

原田 昌弘

昨年の薬学部創設60周年記念総会時にクラス会を開きました。写真前列左より真野君、山中さん、森本さん、青山さん、辻さん、原田、後列木嶋君、相坂君、大江君、橘和さん、清水さん、鈴木君、岩田さん、山中すみえさんの14名でした。写真には写ってないですが植木君と鶴田君が参加していました。

今年のクラス会は10月16日(土)の予定です。



17期 同窓会

2010年5月22日土曜日、阪大中之島センター交流サロンにて第17期の同窓会が開催された。参加者は28名であったが、不参加の30名の方から近況報告が寄せられた。

今年3月に阪大を退官された馬場明道氏の労をねぎらい、また企業人の多くは定年後の穏やかな時を迎えており、肩の力も抜けて、時は一気に学生時代に戻り、和やかな温かな時間を共有することができた。ここ数年は定年や転職などで住所の変動が多くみられ、一昨年の開催から住所録の訂正に努めたが、この度ようやく同期77名中76名の正確な住所録が出来上がった。次回開催は2012年を予定している。

北澤 恵子



18期 同窓会

同窓会は私の趣味で毎年開催しており20回以上の歴史がありますが、参加される皆さんが非常に協力的でとても助かっています。卒業後20年や還暦の年のような区切りの年には集まりが良いようで、卒後20年の時が最高に参加いただき確か88名中48名が参加いただきました。毎年開催していますが最近30人から35人の方に参加いただいています。不思議なもので毎年参加者数はあまり変動がありません。

開催時期は初めのうちは忘年会・新年会の流れで12月や1月に行っていましたが、人生経験を重ねるにつれて忙しくなり会合が少ない2月になり、さらに最近には体に優しい温かい4月5月に行っています。気候の良い時のほうがやはりいいですね。今年初めて分かったことは、女の人にとって開催時期は絶対に4月が良いそうです。なぜならば4月なら着物が着れるからだそうです。参考にします。開催はずっと土曜日の夕方でしたが、夜遅く出歩くことが大義になってきており、日曜日の昼間に行うように変更しました。

北川 善啓

ここで阪大中之島センターの宣伝。特徴①お値段がリーズナブルにできます。大阪駅付近で開催するより1,000円は安くできます。②料理は美味しいですし、料金は相談できます。③難点は駅から遠いことですが、学生時代に記憶を戻して梅田から歩くのも楽しいと思います。

会の終了後近くで酔い覚ましにお茶をしてもまだ夕方まで愛妻のいる自宅に帰るにはちょっと早すぎ問題です。来年はこれも何とかリヤールしたいものです。



薬学部20期『あら還』同窓会

晴天に恵まれ、2010年4月10日(土)、ホテル阪急インターナショナルにて、九州、山陽、四国、関東、北海道の遠方も含め総勢45名(56%)の方が参加されました。久しぶりの再会でお喋りの華が咲き、あっという間に3時間が過ぎ、皆で記念撮影の時間となってしまいました。前回の同窓会からは12年振り、卒業以来3回目の開催ですが、会った途端に「二十歳の青春」に戻ることが出来ました。

米田幸雄氏(金沢大学教授)が開会の挨拶を、幹事一同(米田幸雄、重内(松木)良子、掛樋(吉岡)敬子、大塚(竹中)章子、大垣(松川)寿美子、山村(西尾)倫子)の発声で乾杯し、幹事の名調子の司会のもと、参加者ひとりひとりが壇上で個性豊かに近況報告をしながらテーブルでの美味しいお料理と会話をしました。

開催直前に、中塩哲士氏(前北海道大学教授)の計報を奥様より、さらに、藤田加代子様の9年前のご他界をご主人様からの返信により知り、参加者一同で心よりの黙祷を捧げました。

山村 倫子(西尾)

今回は3年後の開催と決まりましたが、皆様との再会と歓談を心より楽しみにしております。



44期及び院44期同窓会

大阪大学薬学部44期生及び大阪大学大学院薬学研究科44期生の第2回同窓会を、2010年5月1日(土)午後6時より、お初天神の居酒屋で行いました。今回は男性17名、女性10名の合計27名の同窓生が参加し、旧交を温めました。

卒業してから10数年、前回2000年の第1回開催から10年ぶりの開催になりました。30代も後半を過ぎメタボを気にする年頃になりましたが、みんな「変わってへんなあ」と言い合い、すぐに学生時代に戻ったようにワイワイ盛り上がりました。3時間弱のひとときを、昔話を花を咲かせ懐かしく感じ、また、近況報告を交えお互い良い刺激を受けながら、楽しく過ごすことができました。いつまでたっても同級生は良いものだと思えました。

橘 敬祐

なお、今回幹事の私の不手際で連絡が届かなかった同級生もいらっしゃるかと思います。ここにお詫び申し上げると共に、本記事を御覧になった44期の同級生の方は是非とも私宛(nya@phs.osaka-u.ac.jp)に連絡頂ければと思います。次回は10年後と言わず、もう少し短い間隔で皆で集まり、盛り上がりましょう！



近況報告

卒業生の方々の近況をご紹介します。



小野薬品工業株式会社 研究本部 創薬技術部 部長

金 淳二 院27期(薬劑)

1983年に入社して早や27年になります。当初は製剤研究部門で従事し、最初の10年間は会社も順風満帆でしたが、その後は、世界的にも新薬開発の失敗が続き、その一因として極難水溶性や低い生物学的利用率などの物性、動態特性であったことから製剤技術を加味した評価を実施するた

めに、2003年からは医薬品化学研究所内で動態物性評価し、2007年からは早期毒性、代謝評価を追加して活動している。多数の化合物の迅速的な評価だけではなく、多角的な判断基準で選択することの困難さを感じている日々です。最終的には病気に苦しんでいる患者さんのために、物性・動態、安全性に問題がない、新しい治療薬を少しでも早くご提供できることが私の活動方針です。



大阪府立大学大学院 生命環境科学研究所 獣医国際防疫学教室 教授

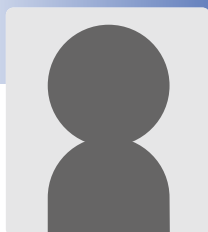
山崎 伸二 院32期(工学)

1986年に修士の学位を頂いた後、東大、京大、ドイツ国立動物ウイルス病研究センター、国立国際医療センター、インド国立コレラ及び腸管感染症研究所を経て2001年から大阪府立大学に勤務しております。現在、スタッフ3名に加え客員研究員5名、博士研究員2名、研究補助員1名、博士課程学生6名、研究生1名、学部生6名の総勢24名が日夜感染症の研究に励んでおります。

新型インフルエンザ、SARS、O157、カンピロバクター等、動物が感染源

となる感染症や食中毒が大きな社会問題となり、獣医師の役割は益々重要になってきています。我々の研究室では、O157、カンピロバクターやビブリオ等の水系・食系感染症について、中国、タイ、インドの研究者と共に分離菌の分子疫学、病原性や薬剤耐性の研究に加え、迅速検査法の開発研究に取り組んでおります。

今年からは、非常勤講師として阪大の大学院生を対象とした「発展途上国における感染症の現状と対策」という講義にも参画しています。見晴らしの良かった吹田キャンパスも所狭しと新しい建物が建ち並び、昔の面影はほとんどなくなりました。寂しさを感じる一方、母校の発展に大きな喜びを感じます。昨年3月、府大の獣医学部はりんくうタウンに移転致しました。関西空港へお越しの際は、高速道路の左側、鉄道の場合は右側をご覧ください。我々の学舎をご覧ください。



厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課 課長補佐

安田 尚之 39期(生薬)

監視指導・麻薬対策課は、厚生労働省において、薬事法に基づく不良医薬品等の取締り・品質管理等を担当する監視指導部門と、覚せい剤や大麻等の取締り等を担当する麻薬対策部門の2つの役割がある部署です。当方は、このうち、麻薬対策を担当しています。麻薬対策は、国連・外国の機

関と連携の上、徹底した取締りを進めることはもとより、新規の薬物に対しても、国内で流行する前に芽を摘むことが重要です。一方、医療用麻薬や向精神薬は、必要とする患者にきちんと供給するため、適正な管理のもとで使っていくことが重要です。こうした日々の業務にあたっては、生薬学教室で培った天然物化学・分析等の知見が十分に活用でき、学生時代に指導頂いた厳しい先生方に感謝申し上げます。



シミック株式会社 大阪支社 CRO事業本部臨床開発部

嶋野 裕人 41期生・院42期(生化)

1996年3月に大学院を修了後、2年間の医薬品メーカーの研究職を経て、現在に至るまでCRO(開発業務受託機関)にて臨床開発業務を行っております。

最初に在籍したCROはシミック株式会社でしたが、途中、他社CROに8年半在籍し、2010年4月より現職に復帰いたし

ました。

近年、医療・医薬品を取り巻く環境の変化がますます激しくなっており、今後も様々な対応が迫られると思いますが、初心を忘れることなく「よりよい薬を1日も早く患者さんに届ける」ことをモットーに日々勤めています。

平日は子供(1歳)と接する時間がほとんどありませんが、土日には子供と遊んだり風呂に入ったりして日々楽しく過ごしております。



独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 生物系審査第一部

小川 倫洋 45期(衛生)

私は遺伝情報解析学分野(衛生化学)で博士後期課程を2002年に修了し、大学勤務を経て、2007年に医薬品医療機器総合機構に就職しました。入社後はバイオ医薬品、特にバイオ後続品と呼ばれる後発品のバイオ医薬品の開発支援や承認審査に従事しています。バイオ後続品において

は、通常、原材料や製造工程が先発品と異なるため、両者の品質特性や非臨床成績に何らかの差異が認められることが多々あります。これら試験成績の差異が最終製品の有効性や安全性にどのような影響を及ぼすかという点については、バイオ後続品の事例が少ないこともあり、製薬企業等との議論を経た個別案件ごとの判断が必要で、私にとっての刺激的なチャレンジとなっています。

なお、休日においては、自動車や自転車を用いた横浜・川崎地区の散策がささやかな楽しみです。



塩野義製薬(株)
関口 光明 48期(薬化)

2005年に薬化学を卒業して5年が経ちました。塩野義製薬に入社して主に抗菌薬の探索研究に携わっていましたが、一年ほどして高分子創薬に向けた基盤研究のため北海道大学へ出張する機会を得ました。当初は生活に不安も感じていましたが、梅雨がない涼しい夏や雪と氷に覆われる寒い冬

など、一年を通して大阪では会おう事のない自然の営みに触れることができ、北海道のすばらしさを実感する日々でした。また大学の先生方や若い研究員の方と一緒に仕事をする中では奇抜なアイデアに出会う事も多く、仕事面でも刺激を受ける毎日でした。この4月から住み慣れた札幌の街を離れ、社内に新しい創業基盤を立ち上げるべく、再び大阪での生活をスタートさせたところです。



兵庫医療大学 薬学部 医療薬学科
南畝 晋平 48期(薬効)

平成21年10月より、兵庫医療大学薬学部に講師としてお世話になり、薬物動態学の講義及び実習を担当しております。着任当初は、初めての講義ということで戸惑いもあり、また講義資料や単位認定試験の作成に四苦八苦しておりました。着任から半年以上たち、大学内のシステムにも慣れてきたと

ころです。

また、本年4月からはキャリアデザイン委員会のメンバーとして、学生さんの就職のお手伝いをするようになりました。薬剤師の就職、就職後のキャリアアップについて不安に思っている学生さんも多く、私のところにも何人か相談にきました。微力ながらも学生さんのお役に立てるよう奮闘中です。大学の目の前が海というロケーションも魅力です。仕事が煮詰まったときは、海を眺めながら癒されています。



アステラス製薬株式会社
原山 悠 48期(合成)

2005年3月に北泰行教授の指導のもと博士後期課程(分子合成化学分野)を修了いたしました。卒業後は、アステラス製薬に入社し日々創業研究に励んでおります。私の配属になりました化学研究所は、昨年の4月に大阪とつくばの2つのサイトから、研究の効率化を図るためつくば市の御幸が丘に集

約されました。それに伴い、私も大学1回生から13年間住み慣れた関西を離れ、妻と娘の三人でつくばに引っ越ししました。御幸が丘への集約に伴い研究所も新設され最新の機器・環境で研究を行うことができています。年齢的にも中堅になり、昨年は新人教育係のリーダーを任されました。

また、新しいテーマ立案や今後の方針に対する決断、そして新薬候補化合物の創出など目に見える結果を今まで以上に求められるようになりました。これからも、患者さまの“明日は変えられる”をスローガンに創業研究に邁進していきたいと思っております。



大阪大学微生物病研究所特任助教
中村 昇太 院49期(物化)

2006年に博士後期課程を修了後、大阪大学微生物病研究所に赴任し早4年が経ちました。海外感染症研究拠点であるタイ感染症共同研究センターに所属し、タイに広がるHIVの現状、マラリアやデング熱の熱帯感染症など、全く知らなかった感染症研究の世界を見て驚いてばかりの4年間でした。

今年度から同じく微生物病研究所の感染症メタゲノム研究分野の所属となり、メタゲノム解析を応用した病原体検出法の開発に取り組むことになりました。この検出法は臨床検体中の核酸成分を次世代シーケンサーによって網羅的に塩基配列を解読し、病原体のゲノム断片を検出するものです。何が出るかな?といつもドキドキしながらデータを見ています。これからも薬学研究科で学んだことを生かして感染症を研究していきたいと考えております。またよろしければ、我々のウェブサイトにご訪問下さい。
<http://imet.gen-info.osaka-u.ac.jp/>



富山化学工業(株) 富山米国出向
伊賀 純子 50期(薬理)

2006年より子会社のあるNYで臨床開発に従事しています。現在米国でアルツハイマー病治療薬、抗真菌薬などを開発しており、治験を委託しているCRO(医薬品開発受託機関)の管理や、専門家からの情報収集などの業務をしています。会議出席、治験実施病院訪問のため出張が多いです

が、移動に飛行機で6時間以上かかることもあり、アメリカの広さを実感します。飛行機が遅れたり、預けた荷物が紛失、破損したりとトラブルがよく起こるのですが、アメリカ人はジョークを言って雰囲気や和ませており、国民性の違いを感じます。日米で違いも多いですが、様々な人との出会いを通じて幅広い視野を持ち、信頼関係を築いて仕事したいと考えています。

近況報告



アステラス製薬株式会社 研究本部
富永 博章 50期(製造)

私は、2007年3月に博士後期課程を修了した後アステラス製薬に入社し、現在は化学研究所の炎症・免疫領域において創薬研究に従事しております。

上市する確率が約2万分の1といわれる中、上市というゴールまでには化合物の新規性、活性、薬物動態や毒性などの

様々な壁があり、決して楽な道のりではありません。しかしながら、自分が作った化合物が壁を一つ乗り越え、ゴールに向かって一歩進んだ時に、「よしっ!!」と喜びを感じることができ、それがさらなる研究に対する意欲となります。

将来、立ちはだかる壁をすべて乗り越え、患者さんに笑顔をもたらす薬を創出できるよう、これからも切磋琢磨していきたいと思います。



武田薬品工業株式会社 医薬研究本部
原澤 俊也 院52期(複合)

今年で武田薬品工業に入社してから5年目になります。なので、大学院で行動薬理を始めた時からですと、もう7年目ということになります。この間、ずっとマウスの行動を見続けていますが、未だにネズミの気持ちを掴みきれ

ません。現在に至るまで一貫して精神疾患の研究を続けていますが、未だ

この分野については知らないことだらけ、ということです。つまりは、まだまだ7年目という感じでしょうか。マウス達はとても気紛れで、思い通りになんか動いてくれません。なので、結果がばらついてしまって結論が出ない、とか、文献の再現がとれない、なんてことが日々続きます。正直、「もう止めようか…」と思うこともあります。でも諦めずに、「何が問題だろうか?」と頭を捻り、調査し、皆と話合っ



大阪大学大学院薬学研究科附属実践薬学研究教育センター 特任助教(常勤)
鍋師 裕美 院53期(毒性)

私は、平成22年3月に博士後期課程を修了し、同4月から大阪大学大学院薬学研究科附属実践薬学研究教育センターの特任助教に着任しました。本センターは、大学院教育改革推進プログラムの支援の下に設置されたものであり、近年、深刻化している食や環境の汚染、新興・再興感染症の問題

に精通する国際的な人材の育成を推進しようとしています。私は、本センターの専任職員として、上記目的に適う人材の育成および輩出を目指した大学院教育改革推進業務に携わっています。つい先日には、初めて講義を担当させていただき、試行錯誤しながらの講義になりましたが、受講生の反応を体感し、私自身にとって新鮮かつ極めて実りのある体験でした。今後は、上記理念の下、より魅力的な講義の実践や研修プログラムの立案を目指して、これまでの研究生活で学んだことを土台として更に勉強し経験を積んでいきたいと思っております。薬友会の諸先生方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



第一三共株式会社 癌研究所
扇谷 祐輔 54期(微生物)

大阪大学大学院薬学研究科を卒業して、早2年が経ちました。私は卒業後、第一三共に入社して癌研究所に配属され、現在は新薬の薬理評価に携わっています。学生時免疫学を専攻していたため、「癌」についてはゼロから

のスタートでしたが、癌について学び、研究を進めていく中で、癌と免疫は

密接に関わりあっていること、癌の発症、転移に関するメカニズムは未解明な点が多く研究者としてとても魅力的な領域であること、死に直結する病であり新薬創出の期待は大きいこと、の3点に気づき、学生時のバックグラウンドを活かしながら、大きなやりがいを持って日々研究に精進しています。そして、研究者としての基礎、魅力をご教授頂いた、細胞生理学分野の先生方に対する敬意と感謝をいつまでも念頭に置いて、成長していきたいと思っています。



武田薬品工業株式会社
大眉 佳大 院55期(薬情)

大学院を修了し、社会人としての一歩を歩み出してからはや一年が経過しました。私は、武田薬品の臨床開発部に配属され、モニターとして日々業務に励んでおります。モニターの主な仕事は、治験実施医療機関に訪問し、治験が問題なく進んでいるかを確認し、治験のデータを収集することです。現

在、糖尿病領域を担当しておりますが、当初は全く知識がなく焦ることも多々ありました。しかしながら、疾患や治験薬のこの知識を少しずつ身につけることで、やっとドクターとディスカッションができるようになってきたところ

です。待ち望まれている画期的な薬剤をできるだけ早く患者さまに届けるという大きな夢を忘れることなく仕事をがんばっていきたくと思



ヤンセン ファーマ株式会社
能瀬 梓早 55期(分析)

皆様こんにちは。私は、2009年に大学院薬学研究科 博士前期課程を修了し、現在、ヤンセン ファーマ株式会社に臨床開発職に就いております。

社会人となり1年が経ちましたが、現在の仕

事スタイルは研究室生活において構築されたと考えており、自主的な研究に取り組ませていただいた宇野公之教授には本当に感謝しております。とはいももの、与えられた環境内において研究を行っていた学生時代とは異なり、現在は、自ら道を拓いていく必要性を感じ、何事においても積極的・能動的に取り組んでおります。

また、業務においては、学生時代の講義・研究内容を活用する機会もあり、今後も、これまで学んだ知識・スキルを活用し、邁進していきたいと考えております。



大阪大学大学院 工学研究科 生命先端工学専攻
生物資源工学領域(博士後期課程)
松原 惇起 55期(応環)

私は現在、超臨界流体技術を用いた分析システムの開発を行っています。超臨界流体は高い拡散性と高い溶解性を併せ持つため、抽出溶媒として非常に優秀で、液体や気体では不可能なオンライン抽出・分離・検出システム

を構築することが可能です。この分析系のメリットは、抽出など試料調整時に起こる劣化を回避することで、細胞内の‘生’の代謝情報を獲得可能であることです。このシステムを通常の溶媒抽出法では非常に酸化されやすい抗酸化物質に应用することで、老化やさまざまな疾患の発生に関与するとされる酸化ストレスに対する生体の応答メカニズム解明に貢献したいと考えています。



摂南大学薬学部薬学科 環境保健学研究室
秋山 恵麻 56期(蛋白)

今年の3月に大学院を卒業し、4月から摂南大学で特任助教として勤務しています。教えてもらう側から、教える側になるということにプレッシャーや不安を感じながら迎えた4月でしたが、そんな私の不安をよそに、研究室では元

気で素直な学生や、優しい先生方に恵まれ、素晴らしい形で新生活をスタートすることができました。現在の薬学部では、6年制の1期生が5年生となり長期実務実習がよいよ始まろうとしています。この薬学部の大きな変遷期に、微弱ながらも携われることをとてもうれしく感じています。新生活は始まったばかりで、至らない点も多々ありますが、自分自身が大学で学んできたことを活かし、薬学教育や研究に少しでも貢献できるよう、これから頑張っていきたいと思います。



厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課
中尾 祐輔 56期(病薬)

私が公務員になろうと考えた理由は多岐にわたる異なった分野の仕事ができること、そして日本に住んでいる国民が安全・安心・健康に過ごせる社会づくりをしていきたいと思ったからです。公務員は国民に奉仕しなければなら

ないので、ある程度の私欲を捨てなければなりません。しかし仕事はかなり充実していて、様々な経験ができると思います。採用試験は1次、2次とあり全公務員試験の中で最も難易度の高い試験ですし、そのあとに官庁訪問もあるので大変だとは思いますが、国を変えたい、あるいは国民のために自分の能力を最大限に生かしたいと思っている方は是非ともチャレンジしてみてください。

新任教授紹介



大阪大学大学院薬学研究科
(臨床薬効解析学分野)
藤尾 慈

昨年10月1日付けで、東純一名誉教授の後任として、臨床薬効解析学分野を担当させていただくこととなりました。この場をお借りいたしまして、御挨拶させていただきます。

私は、昭和62年に大阪大学医学部を卒業後、引き続き、基礎系大学院に進学いたしました。しかし、全く「芽が出ない」ため、平成3年より臨床に転じ、岸本忠三先生の御指導の下、大阪大学医学部第三内科にて臨床研修を開始しました。さらに平成4年より、大阪府立成人病センターで循環器内科医として診療にあたり、平成7年より大阪大学分子病態内科学(旧第三内科)にて、臨床に従事しながら研究を行ってまいりました。平成9年から2年間、米国タフツ大学に留学後、再び分子病態

内科学教室に帰局し、以後、今日に至るまで、新規薬物治療の開発を目指して、「心臓におけるサイトカインシグナル」をテーマに研究を続けております。

薬学研究科には平成14年からお世話になっております。御縁は、何かの飲み会で、第三内科の先輩であられます東先生から、「薬学にけえへんか?」とお誘いいただいたことにあります。もともと循環器内科医でありながらカテーテル治療が大嫌いで、「ちまちま処方工夫する」のが好きでありました。従いまして、東先生の御指導の下、臨床ゲノム薬理学の研究に参画させていただき、面白さに取りつかれ、今では、循環器疾患の薬物治療学をもう一つの研究の柱にしております。

このように、スマートでない人生を歩んでまいりましたが、一貫して考えてきたことは、「患者さんのためになる研究をしよう。」ということです。恩師、岸本忠三先生の言葉に、「継続が創造を生む。」という言葉があります。途切れることのない夢を持ち続けたいと思っています。

今後とも、御指導の程、何卒、宜しくお願い申し上げます。

馬場 明道教授 定年退任記念最終講義・記念祝賀会の開催

馬場明道教授定年退任記念事業会事務局
橋本 均

平成22年3月31日をもって本学を定年退任されました、馬場 明道先生の定年退任記念最終講義が、「脳とくすり」に魅せられて と題し、3月15日、薬学部内の講義室にて開催されました。約320名もの方々にご来聴いただき、キャパシティが一番大きな大講義室に変更しての開催でしたが、会場に入りきらなかった皆さまには、パイプ椅子の追加とサブの講義室への中継により対応させていただきました。

最終講義では、先生のご研究のメインテーマである、‘新規創薬標的分子の探索と機能評価’について、薬理学の過去と現在や、様々なラボ内・外のエピソードを交え、研究成果の一端を紹介されました。先生は、神経薬理学に分子生物学を取り入れるなど、常に最新の研究手法を駆使した創薬基礎研究により、数々の新しい疾患関連分子や創薬シーズを見出し、臨床への橋渡しにも成功して来られました。また薬理学の講義など、教育にもたいへん注力されました。講義の最後で、3回生の教え子が教授室を訪問した際の話をされ、「素晴らしい学生たちに、感謝!」の言葉で講義を締めくくられたことが、とても印象的でした。

同日夕方、大阪市内のリーガロイヤルホテルにて開催されました記念祝賀会にも、300余名の方々にご臨席いただきました。小林資正研究科長の開会の言葉に引き続き、ご来賓の宮原秀夫前大阪大学総長、近藤雅臣大阪大学名誉教授、成宮周京都大学教授・日本薬理学会理事長、松木則夫東京大学教授・日本薬学会会頭から御祝辞を頂きました。松田暉兵庫医療大学学長には、ご祝辞とともに乾杯の御発声を頂戴し、華やかに祝宴を始めさせていただきました。中盤には、教え子や共同研究先の先生による余興と独唱（さくら・森山直太郎）により、祝宴が大

いに盛り上がりました。引き続き、前田定秋摂南大学薬学部部長より、薬理学教室同門会を代表して馬場先生に記念品を贈呈していただいた後、萬年成泰大阪大学薬友会会長、遠山正彌大阪大学教授、成蓮姫韓国忠北大学教授からお祝いのお言葉を頂戴しました。祝賀会は終始和やかに進み、二時間半が瞬く間に過ぎました。最後に馬場先生からご挨拶がございましたが、会場を爆笑の渦に巻き込みながら、36年間のお大阪大学での日々を振り返り、多くの方々への感謝の気持ちを述べられました。閉会にあたり、土井健史大阪大学副学長に結びのお言葉をお願いし、祝賀会は盛会のうちにお開きとなりました。

お忙しいなか、ご臨席いただきました薬友会の皆様には、この場をお借りしてお礼申し上げます。



山元 弘教授最終講義・定年退任記念祝賀会の開催

山元 弘教授定年退任記念事業会事務局
辻川 和文

平成22年3月31日をもって定年退任されました細胞生理学分野教授山元 弘先生の最終講義が平成22年3月5日に、また定年退任記念祝賀会は翌3月6日に開催されました。

薬学研究科2号館特別講義室において行われました最終講義には、山元先生のご友人、薬学研究科の教員や学生、細胞生理学分野の同窓会（微生物同窓会）の同窓生、門下生など多数の方々にご出席下さいました。薬学研究科長小林資正先生のご挨拶、学務会議議長八木清仁先生によるご経歴紹介に続き、山元 弘先生が「免疫学の発展期に学んで」と題して講義されました。この講義では、イデオタイプネットワークを介した免疫調節機構のご研究に始まり、神経系による免疫系の制御機構の解析や、骨格筋の再生に働く分子・細胞機能の解明に至るまでの巧妙かつ緻密な研究の数々をお話いただきました。

記念祝賀会は、千里阪急ホテルに約200名の方々にご臨席いただき開宴いたしました。まず山元 弘先生定年退任記念事業会実行委員長小林資正研究科長より開会のお言葉があり、引き続き微生物同窓会会長濱 堯夫先生、薬友会会長萬年成泰先生、高知大学医学部教授谷口武利先生からご祝辞をいただきました。その後、神戸学院大学教

授眞弓忠範先生に乾杯のご発声を頂戴し、華やかに祝宴を始めることができました。会の半ばでは、岡部 勝大阪大学微生物病研究所教授、辻坊 裕大阪薬科大学教授や門下生の方々からお祝いのご指導いただいた感謝の言葉を頂戴しました。終始和やかに進んだ祝賀会も、瞬く間に三時間が過ぎようとした終盤に細胞生理学分野学生全員から、感謝とお礼をこめて山元先生に細胞生理学分野卒業証書の授与がありました。その後、山元先生から薬学研究科の先生方、微生物同窓会の先輩やご友人、それにこれまで研究をともに進めてくれた門下生の方々に感謝のお気持ちが述べられました。最後に、閉会にあたり、微生物同窓会副会長の川端常樹様に結びの言葉をお願いし、祝賀会は盛大のうちにお開きとなりました。

お忙しい中、山元 弘先生定年退任記念事業にご賛同、ご臨席いただきました皆様に、この場をお借りいたしまして心よりお礼申し上げます。



薬学部創立60周年記念行事

薬学部は昭和24年に医学部薬学科として発足して以来、昨年5月で創立60周年を迎えました。これを記念して平成21年10月31日(土)にホテル阪急エキスポパークにおいて創立60周年記念行事を挙行了しました。

記念行事は記念式典、記念講演会及び記念祝賀会の3部からなり、記念式典においては小林資正学部長が式辞とともに薬学部の沿革と将来の展望について説明されました。続いて伊藤信行京都大学薬学部長、眞弓忠範本学名誉教授、萬年成泰薬友会会長からの来賓祝辞が行われました。

式典終了後、引き続き記念講演会が催され、講演者として現在官庁や薬業界で活躍しておられる薬学部・薬学研究科ご出身の厚生労働省岸田修一大臣官房審議官、沢井製薬株式会社澤井弘行会長、中外製薬株式会社大杉義征営業本部学術情報部部長、第一三共ヘルスケア株式会社大江方二顧問の諸氏が壇上に立たれました。会場には学内外から230人の参加者が訪れ、ほぼ満席の状態それぞれの業界でのご活躍ぶりに熱心に聞き入っていました。



記念講演会終了後、会場を移して祝賀会が催されました。祝賀会には鷺田清一総長から祝辞をいただいた後、大阪大学の法被を着た来賓者7名と学部長による鏡開きが行われました。薬友会最高顧問である近藤雅臣名誉教授の発声で乾杯後、出席者たちは歓談を楽しみました。2時間の宴会でありましたが、終始なごやかな雰囲気のもと、盛会裡に閉会となりました。



岩田平太郎先生を偲ぶ

松田 敏夫(大学院20期生)

本学名誉教授、そして日本薬理学会名誉会員である岩田平太郎先生は、平成21年4月19日(日)にご逝去されました。享年81歳でした。ここに生前の先生を偲び謹んで哀悼の意を表します。

岩田先生は昭和26年に大阪大学医学部医学科をご卒業後、奈良県立医科大学助手、名古屋市立大学医学部助教授を経て、昭和34年に大阪大学薬学部助教授として赴任され、昭和41年7月より教授に就任されました。大阪大学を定年退官されるまでの約32年間、大阪大学薬学部にて教育・研究にご尽力され、平成3年に大阪大学名誉教授の称号を授与されました。先生は、薬理学に生化学の手法を取り入れ、独自性の高いテーマで数多くの業績を残されました。特に、チアミンの脳神経系での研究では、昭和53年に日本ビタミン学会賞を受賞されています。また、タウリンを初めとする含硫アミノ酸に関する研究については、「含硫アミノ酸研究会」を立ち上げ、理事長として含硫アミノ酸研究を薬理学、神経化学を含む広範な研究領域に拡大することに貢献されました。中でも、タウリンの前駆体のシステインスルフィン酸の神経系における存在、神経化学、薬理作用を世界に先駆けて解明されました。さらに、眼に関する薬理学的研究の重要性にいち早く着目し、「眼薬理学会」を立ち上げ、眼薬理学研究推進の基盤を作られました。メインの所属学会である日本薬理学会においては、ご定年の時に年会長をされた

ほか、理事、評議員として長年にわたる多大の貢献をされました。その他、日本薬学会理事、日本ビタミン学会理事などの要職を務めると共に、数多くの国内外の学会、シンポジウムを主宰し、薬学領域のみならず、広く我国の学術研究・教育に大きく貢献されました。また、阪大在職中においては、薬学部長、評議員などの要職にもつかれ大阪大学の管理運営に多大の貢献をされました。これらの業績に対して、平成19年に「瑞宝重光章」が授与されています。(馬場明道, 日薬理誌 134(2), 55-56, 2009)

私は、昭和47年に大阪大学大学院修士課程に入学してから先生が大阪大学をご退任されるまで19年にも亘る長い間ご指導を受けました。緊張したディスカッションを通して、サイエンスにとどまらず多くのことを学ばせて頂きました。先生の研究のコンセプトは、「独創性」であり、いつも「どこが新しいのですか」と質問されていました。先生との思い出は数多くあり、それは兵庫医療大・馬場明道先生(大阪大学名誉教授)とともに共有しています。晩年では、馬場先生と共に瑞宝重光章の賞状をご自宅にお届けした際に、大変楽しい時間を過ごさせて頂いたことが思い出されます。

長年の直接のご指導に感謝し、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

受賞の喜び

「平成22年度日本薬学会学術振興賞」を受賞して



名古屋工業大学大学院
工学研究科 教授
柴田 哲男(院36期)

「創薬開発を志向した有機フッ素化合物の触媒的不斉合成」に対する研究で、平成22年度日本薬学会学術振興賞を受賞いたしました。これもひとえに私を育てていただきました大阪大学時代の恩師、北泰行阪大名誉教授のご指導が原点にあり、ここに深くお礼を申し上げる次第です。「A small atom with a big ego」。これは2000年の米国化学会フッ素化学部門で使われたキャッチフレーズで、フッ素原子の特異な性質を端的に表しています。例えば、食酢(酢酸, CH_3COOH)。この分子中の水素原子の一つをフッ素原子に置き換えたモノフルオロ酢酸(CFH_2COOH)は、打って変わって猛毒であり、

研究室での取り扱いですら厳重に規制されています。水素原子を全てフッ素で置き換えたトリフルオロ酢酸(CF_3COOH)は、TFAの愛称を持つ合成化学者にはなじみ深い物質で、ペプチド合成の脱保護剤等で活躍しています。小さくても自己主張の強いフッ素原子は、試行錯誤の付きまとう創薬研究にイノベーションをもたらすであろうと信じ、日夜研究に励んでおります。

「平成22年度日本薬学会奨励賞」、 「International Cytokine Society Young Investigator Award」を受賞して



大阪大学
臨床工学融合研究教育センター 講師
児玉 靖雄(47期)

この度は、薬友会だよりに執筆する機会を与えて頂きありがとうございます。2010年3月に「レセプター指向性を有する蛋白性アンタゴニストの創製と自己免疫疾患治療への展開」で平成22年度日本薬学会奨励賞を、2009年10月に「Creation of lysine-deficient mutant lymphotoxin-? with receptor selectivity by using phage display」でInternational Cytokine Society Young Investigator Awardを頂戴いたしました。この場をお借りしまして、薬友会の皆様にご報告申し上げます。

ここで簡単に日本薬学会奨励賞の受賞研究についてご紹介させていただきます。多発性硬化症などの自己免疫疾患の多くは未だ、病態メカニズムが不明で、治療法は無い難治性疾患に指定されています。これら自己免疫疾患の惹起・悪化には、腫瘍壊死因子(TNF)が中心的役割を果たしており、抗TNF抗体などTNF阻害活性を持った蛋白医薬が実用化されています。しかし、生体防御機構に重要なTNFの2つの受容体TNFR1・R2を介した機能を全て阻害してしまい、感染・発癌リスクの上昇など、重篤かつ致命的な副作用を招いてしまっています。一方で近年、TNFR1が炎症の悪化、TNFR2がウイルス感染防御を担うことが明らかとされつつあります。本観点から私は、従来の抗TNF療法に変わる、副作用の少ない新規TNF阻害薬の開発を目指し、TNFR1に対する選択的

結合能とアンタゴニスト活性を併せ持つTNF変異体の創製を試みました。その結果、独自開発したファージ表面提示法による機能性人工蛋白質の網羅的創製技術を駆使することで、TNFR1選択的結合能を有するアンタゴニストであるTNF構造変異体R1antTNFの創製に成功しました。さらに、独自開発したN末端部位特異的バイオコンジュゲーションにより、生体内安定性が飛躍的に向上したPEG化R1antTNFを創製し、各種自己免疫疾患モデルでの有用性を実証しました。以上より、PEG化R1antTNFは、TNFが関与する多くの難病に対する画期的医薬品となり得るものと考えています。更に、蛋白性アンタゴニストの創製という新たな創薬概念は、21世紀の創薬研究に大きく貢献するものと期待しています。

この度の受賞において、自らの研究成果を評価していただけたことは、今後の研究活動における大きな活力となりました。今後も更なる飛躍を目指して激しく努力していく所存でありますので、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、本研究の遂行に際し終始温かいご指導・ご鞭撻を賜りました神戸学院大学薬学部 眞弓忠範教授、大阪大学大学院薬学研究科 中川晋作教授、堤 康史教授をはじめとする諸先生方、ならびに多くの共同研究者の方々により感謝申し上げます。

「平成21年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞して



大阪大学大学院薬学研究科 助教
児玉 哲也(特)

近年、核酸を素材とした医薬品・新技術の開発が発達ですが、その実用化には生体内安定性を確保したり、我々が望む時にのみその機能性を発揮したりできる人工核酸の創製が欠かせません。私たちは核酸の糖部コンホメーションの違いが核酸の性質を大きく変化させることに着目し、その特徴を光やレッドックス変化などの外部刺激に応答するスイッチとして機能させることに成功しました。今回、核酸の情報認識能力や安定性を我々のタイミングで調節できること示したこれらの成果が評価され、「遺伝子発現の時空間制御を目指した外部刺激応答

型人工核酸スイッチの設計と合成」に関する研究として、平成21年度近畿支部奨励賞を受賞致しました。

本研究は、大阪大学名誉教授今西武先生ならび本研究科教授小比賀聡先生のご指導と、研究室の方々の日々の努力によってなし得たものであり、この場をお借りして皆様に厚く御礼申し上げます。

受賞の喜び

「平成21年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞して



大阪大学大学院薬学研究科 助教
吾郷 由希夫(49期)

この度、第59回日本薬学会近畿支部総会・大会におきまして、光栄にも平成21年度日本薬学会近畿支部奨励賞を拝受致しました。この場をお借り致しまして、薬友会の皆様にご報告申し上げます。

今回の受賞は、「アルツハイマー病治療薬ガランタミンの感覚情報処理障害改善作用」に関する一連の研究成果に対するものであります。本研究は、臨床現場からの情報に基づき実施した医療薬学の基礎研究です。すなわち、統合失調症患者で見られる感覚情報処理機能障害(プレパルスインヒビション障害)を呈する長期環境ストレス負荷マウスを作製し、統合失調症の認知機能障

害に有効であることが報告されているガランタミンの新しい作用機序を見出したものであります。

この度の受賞において、自らの研究成果を評価して頂いたことは、今後の研究活動における大きな励みと自信となりました。これを機に、更なる飛躍を目指して精励していきたいと思っております。最後になりましたが、本研究を遂行するにあたり、終始温かい御指導、御鞭撻を賜りました松田敏夫教授、馬場明道教授をはじめとする諸先生方、御協力を頂きました薬物治療学分野(旧:複合薬物動態学分野)の皆様にご心より感謝申し上げます。

「平成21年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞して



大阪大学大学院薬学研究科 助教
山下 沢(特)

この度、第59回日本薬学会近畿支部大会におきまして「ピコ秒レベルでの構造変化にみる酸素センサータンパク質におけるアミノ酸の配向性」という内容で発表させて頂き、日本薬学会近畿支部奨励賞を受賞致しました。

私事ではございますが、一昨年に着任したばかりでして、大阪大学のみならず近畿圏への貢献も未だ達せられていない中、このような賞を賜りまして大変恐縮致しております。受賞に恥じることはないよう、今後は世界で通用する大阪大学発の研究を産み出すため、日々精進していく所存にございます。

尚、本受賞は私個人の貢献ではなく、大阪大学大学院薬学研究科分子反応解析学分野の宇野公之教授、青山浩准教授の御指導はもちろん、同研究分野の学生諸氏との日々の議論や共同での研究成果なしでは得られたものではございません。この場をお借りして深甚なる感謝の意を表します。

末筆ではございますが、阪大薬学部における学生の研究および薬学教育に関する指導など、これからも鋭意努めて参る所存にございますので、薬友会の皆様から御指導御鞭撻を賜れましたら幸甚でございます。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

「平成21年度日本DDS学会奨励賞、日本薬剤学会奨励賞、Gottfried Wagener Prize 2009 3rd prize」を受賞して



大阪大学大学院薬学研究科 准教授
近藤 昌夫(42期)

進化の過程において多細胞生物は、生体内の恒常性を維持するために生体内内外を隔てる障壁として上皮細胞を発達させてきた。上皮細胞層の透過は薬物吸収の第一ステップであること、悪性腫瘍の90%は上皮由来であること、粘膜上皮細胞層は多くの病原性微生物の生体内侵入門戸となっていることから、上皮細胞は創薬ターゲットとして有用な性質を有しているものの、上皮細胞生物学の遅延から上皮細胞を標的とした創薬研究は遅々として進展していなかった。

八木ラボでは、上皮細胞固有の構造であるタイトジャンクション(TJ)に着目し、TJの分子基盤claudinを利用した創薬研究を進め、現在までにclaudin modulatorを利用した非侵襲性投与技術(高橋梓さん、山浦利章くん、松久幸司くん、斉藤郁美子さん、松下恭平くん、各務洋平くんを中心としたグループの研究成果)、claudinを標的とした癌ターゲティング法(佐伯理恵さん、角谷秀樹

くんを中心としたグループの研究成果)、claudin binderを利用した粘膜ワクチン技術(角谷秀樹くん、深坂昌弘くん、鈴木英彦くんを中心としたグループの研究成果)を創出し、上皮細胞を標的とした創薬の可能性を提唱してきた。

今回、これら学生の激烈な努力に対して日本DDS学会、日本薬剤学会(各務洋平くんは日本薬剤学会第25年会において最優秀発表者賞を受賞)、ドイツ商工会議所から評価して頂いたことを励みに、今後も生体バリアを利用した創薬研究領域の開拓および研究成果の実用化を目指し、学生と共に最善を尽くしたい。

本受賞は、生体機能分子化学分野 八木清仁先生のご指導および学生の激烈な努力、相互作用頂いた全ての方々のご高配の所産であり、この場をお借りして衷心よりお礼申し上げます。

受賞者紹介

他の受賞について紹介させていただきます。

平田 收正 30 期 大阪大学大学院薬学研究科 教授

学 会 名：日本生物工学会
課 題 名：A high throughput and exhaustive analysis of diverse lipids by using supercritical fluid chromatography-mass spectrometry for metabolomics (Journal of Bioscience and Bioengineering, Vol 105, 460-469, 2008)
賞の名前：日本生物工学会論文賞
受 賞 日：平成 21 年 9 月 23 日

池田 賢二 40 期 大阪大学大学院薬学部 助教

学 会 名：国際 TDM 学会 (IATDMCT)
課 題 名：Effect of pH Gradient on Valproic acid Transport Across Trophoblasts using the High-Throughput Method with Differentiating Human Choriocarcinoma JEG-3 Cells
賞の名前：ベストポスター賞 (Best Poster in Clinical Toxicology)
受 賞 日：平成 21 年 10 月 8 日

富本 修平、牡鹿 達也、新谷 紀人、ほか 47 期 小野薬品工業(株)

学 会 名：日本薬理学会
課 題 名：Markedly reduced white adipose tissue and increased insulin sensitivity in adcyap1-deficient mice.
賞の名前：第 14 回 JPS 優秀論文賞
受 賞 日：平成 22 年 3 月 17 日

一條 知昭 51 期 大阪大学大学院薬学研究科 博士研究員

学 会 名：The 30th Annual Congress of the European Society of Mycobacteriology
課 題 名：Rapid detection of respiratory active mycobacteria by Auramine O-CTC double staining
賞の名前：Best poster of the 30th Annual Congress of the European Society of Mycobacteriology
受 賞 日：平成 21 年 7 月 7 日

村井 健一 51 期 大阪大学大学院薬学研究科 助教

学 会 名：日本薬学会 近畿支部
課 題 名：実用的イミダゾリン合成法の開発とその展開
賞の名前：奨励賞
受 賞 日：平成 22 年 1 月 8 日

阿部 康弘 52 期 (独)医薬基盤研究所 バイオ創薬プロジェクト

学 会 名：第 25 回日本 DDS 学会
課 題 名：生物学的 DDS による活性増強型 TNF 変異体の創出とその粘膜ワクチンアジュバントとしての有用性評価
賞の名前：優秀ポスター賞
受 賞 日：平成 21 年 7 月 3 日

小野寺 章 院 53 期 大阪大学大学院薬学研究科 研究員

学 会 名：第 36 回 日本トキシコロジー学会
課 題 名：新規ミトコンドリア DNA 損傷の簡易解析法の開発
賞の名前：日本トキシコロジー学会優秀発表賞
受 賞 日：平成 21 年 6 月 18 日

嶋田 健 53 期 アステラス製薬(株)

学 会 名：次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2009
課 題 名：多能性幹細胞からの新規セロトニン神経細胞分化誘導系の確立
賞の名前：次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム 2009 優秀発表賞
受 賞 日：平成 21 年 8 月 31 日

萱室 裕之 院 53 期 旭化成ファーマ株式会社

学 会 名：第 39 回 日本免疫学会
課 題 名：Characterization of mucosal and systemic immune responses elicited by interleukin cytokines as mucosal vaccine adjuvant against influenza virus
賞の名前：Melchers' Travel Award
受 賞 日：平成 21 年 12 月 4 日

長野 一也 53 期 (独)医薬基盤研究所 バイオ創薬プロジェクト

学 会 名：日本薬学会近畿支部
課 題 名：抗体プロテオミクスによる乳がん関連バイオマーカーの探索とその評価
賞の名前：奨励賞
受 賞 日：平成 22 年 1 月 8 日

野村 鉄也 53 期 帝京大学薬学部助教

学 会 名：第 25 回日本 DDS 学会
課 題 名：自己免疫疾患に対する有効性および安全性の向上を目指した TNFR1 指向性アンタゴニストの改変
賞の名前：優秀ポスター賞
受 賞 日：平成 21 年 7 月 3 日

山口 朋子 院 53 期 (独)医薬基盤研究所 幹細胞制御プロジェクト

学 会 名：遺伝子・デリバリー研究会 第 9 回シンポジウム
課 題 名：アデノウイルスベクターによる Toll-like receptor 非依存経路を介する自然免疫誘導について
賞の名前：奨励賞
受 賞 日：平成 21 年 7 月 11 日

学 会 名：第 8 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォラム 2009
課 題 名：アデノウイルスベクターによる自然免疫誘導メカニズムの解明
賞の名前：優秀発表者賞
受 賞 日：平成 21 年 12 月 8 日

渡辺 光 54 期 (独)国立病院機構呉医療センター中国癌センター薬剤科

学 会 名：第 9 回日本蛋白質科学会
課 題 名：活性増強型リンフォトキシン α の機能解明
賞の名前：ポスター賞
受 賞 日：平成 21 年 5 月 21 日

松原 惇起 55 期 大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻 博士後期課程

学 会 名：日本生物工学会
課 題 名：A high throughput and exhaustive analysis of diverse lipids by using supercritical fluid chromatography-mass spectrometry for metabolomics (Journal of Bioscience and Bioengineering, Vol 105, 460-469, 2008)
賞の名前：日本生物工学会論文賞
受 賞 日：平成 21 年 9 月 23 日

小川 智恵子 56 期 日本新薬株式会社

学 会 名：第 39 回複素環化学討論会
課 題 名：超原子価ヨウ素反応剤を用いたヘテロ芳香族ピアリール類の効率的合成法
賞の名前：ポスター賞
受 賞 日：平成 21 年 10 月 16 日

奥井 朋子 院 56 期 塩野義製薬株式会社

学 会 名：第 32 回情報化学討論会
課 題 名：医薬品副作用データベースからの情報抽出並びに解析手法の検討
賞の名前：ポスター賞
受 賞 日：平成 21 年 10 月 30 日

瀬波 賢人 56 期 大日本住友製薬株式会社

学 会 名：日本プロセス化学会 2009 サマースンポジウム
課 題 名：メチレンアセタールの非常に緩和で高選択的な脱保護法の開発
賞の名前：2009JSPS 優秀賞
受 賞 日：平成 21 年 7 月 17 日

登 治謙 56 期 塩野義製薬

学 会 名：第 10 回 Pharmac-Hematology シンポジウム
課 題 名：血小板第 4 因子遺伝子の発現制御における -51 ETS サイトの役割
賞の名前：優秀発表賞
受 賞 日：平成 21 年 6 月 19 日

受賞者紹介

他の受賞について紹介させていただきます。

稲村 充 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 3 年

学 会 名：日本組織培養学会第 82 回大会
課 題 名：未分化ヒト ES 細胞から中内胚葉へのラミニンによる分化促進効果
賞の名前：日本組織培養学会奨励賞
受 賞 日：平成 21 年 5 月 19 日

学 会 名：第 16 回肝細胞研究会
課 題 名：ヒト ES 細胞や iPS 細胞からの内胚葉系細胞および肝細胞への
分化誘導法の開発
賞の名前：優秀演題賞
受 賞 日：平成 21 年 6 月 27 日

吉川 舞 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 2 年

学 会 名：第 8 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2009
課 題 名：Antibody-drug conjugate の開発に適う細胞内侵入抗体の
効率的探索法
賞の名前：優秀発表者賞
受 賞 日：平成 21 年 11 月 14 日

有田 修平 大阪大学大学院薬学研究科 博士前期課程 2 年

学 会 名：第 8 回次世代を担う若手ファーマ・バイオフィォーラム 2009
課 題 名：インフルエンザ経鼻ワクチンのためのサイトカインアジュバントの開発
賞の名前：優秀発表者賞
受 賞 日：平成 21 年 11 月 15 日

伊藤 浩介 大阪大学大学院薬学研究科 博士前期課程 2 年

学 会 名：遺伝子・デリバリー研究会 第 9 回シンポジウム
課 題 名：三重鎖形成を基盤とした迅速かつ簡便な SNP 分析法
賞の名前：奨励賞
受 賞 日：平成 21 年 7 月 11 日

須賀 友規 大阪大学大学院薬学研究科 博士前期課程 2 年

学 会 名：第 29 回有機合成若手セミナー
課 題 名：C-35 フッ素化アセトゲニン類の合成と癌細胞に対する増殖抑制活性評価
賞の名前：第 29 回有機合成若手セミナー 優秀研究発表賞
受 賞 日：平成 21 年 11 月 24 日

山本 剛史 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 2 年

学 会 名：Joint Symposium of 5th Annual Meeting of Oligonucleotide
Therapeutics Society and the 19th Antisense Symposium
課 題 名：THERAPEUTIC APPLICATION OF 2' ,4'
-BNA/LNA-MODIFIED OLIGONUCLEOTIDE
FOR THE TREATMENT OF HYPERCHOLESTEROLEMIA
賞の名前：Nucleic Acids Research Award/ Antisense (Kawahara) Award
受 賞 日：平成 21 年 11 月 5 日

辻野 博文 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 1 年

学 会 名：第 19 回金属の関与する生体関連反応シンポジウム
課 題 名：遠位のフェニルアラニン残基はニューログロビンのガス結合性に影響を及ぼす
賞の名前：ポスター賞
受 賞 日：平成 21 年 6 月 12 日

成松 翔伍 大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程 1 年

学 会 名：第 9 回日本蛋白質科学会
課 題 名：T 細胞受容体を用いた新規ターゲティング分子の創製
賞の名前：ポスター賞
受 賞 日：平成 21 年 5 月 21 日

学 会 名：第 25 回日本 DDS 学会
課 題 名：T 細胞受容体を用いた新規ターゲティング分子の創製
賞の名前：優秀ポスター賞
受 賞 日：平成 21 年 7 月 3 日

平成21年度薬学部創立50周年記念国際化推進事業 「大学院生海外派遣」採択者一覧

※辞退、インフルエンザによる渡航中止除く

博士後期課程2年 萱室 裕之

目 的：12th International TNF Conference Madridで
学会発表のため
会議期間：2009. 4. 26～2009. 4. 29
派 遣 先：スペイン

博士後期課程2年 伊藤 元気

目 的：22nd International Congress of Heterocyclic
Chemistryにてポスター発表をおこなうため
会議期間：2009. 8. 2～2009. 8. 7
派 遣 先：カナダ連邦

博士後期課程2年 野村 鉄也

目 的：12th International TNF Conference Madridで
学会発表のため
会議期間：2009. 4. 26～2009. 4. 29
派 遣 先：スペイン

博士後期課程3年 河田 裕治

目 的：22nd International Congress of Heterocyclic
Chemistryにてポスター発表をおこなうため
会議期間：2009. 8. 3～2009. 8. 7
派 遣 先：カナダ連邦

博士後期課程2年 稲村 充

目 的：International Society for Stem Cell Research,
7th Annual Meeting 2009にて発表
会議期間：2009. 7. 8～ 2009. 7. 11
派 遣 先：スペイン王国

博士前期課程2年 中原 基

目 的：22nd International Congress of Heterocyclic
Chemistryにてポスター発表をおこなうため
会議期間：2009. 8. 3～2009. 8. 7
派 遣 先：カナダ連邦

「大学院生海外派遣」採択者一覧

※辞退、インフルエンザによる渡航中止除く

博士後期課程1年 馬場 武
目 的： 22nd International Congress of Heterocyclic Chemistryにてポスター発表をおこなうため 会議期間： 2009. 8. 3～2009. 8. 7 派遣先： カナダ連邦

博士後期課程3年 香田 健
目 的： 第22回国際-アジア太平洋神経化学会合同大会にてポスター発表をおこなうため 会議期間： 2009. 8. 23～2009. 8. 28 派遣先： 大韓民国

博士後期課程3年 石濱 壽紘
目 的： 第22回国際-アジア太平洋神経化学会合同大会にてポスター発表をおこなうため 会議期間： 2009. 8. 23～2009. 8. 28 派遣先： 大韓民国

博士後期課程1年 山下 琢矢
目 的： HUPO 8th Annual World Congress, Tronto 2009にて発表のため 会議期間： 2009. 9. 28～2009. 9. 30 派遣先： カナダ連邦

博士後期課程3年 山口 朋子
目 的： European Society of Gene and Cell Therapy, 17th Annual Meeting 2009にてポスター発表 会議期間： 2009. 11. 21 ～2009. 11. 25 派遣先： ドイツ

博士前期課程2年 辻野 博文
目 的： Ecole Polytechniqueにおいて、ピコ秒時間分解スペクトルを測定し、軸配位子の解離及び再結合に関するデータを得る。 会議期間： 2009. 11. 27～2009. 12. 7 派遣先： フランス

博士前期課程2年 森田 早紀子
目 的： Ecole Polytechniqueにおいて、ピコ秒時間分解スペクトルを測定し、軸配位子の解離及び再結合に関するデータを得る。 会議期間： 2009. 11. 27～2009. 12. 7 派遣先： フランス

博士前期課程1年 松本 麻希
目 的： Ecole Polytechniqueにおいて、ピコ秒時間分解スペクトルを測定し、軸配位子の解離及び再結合に関するデータを得る。 会議期間： 2009. 11. 27～2009. 12. 7 派遣先： フランス

博士前期課程2年 山浦 利章
目 的： 49th Annual Meeting of the American Society for Cell Biologyにて発表 会議期間： 2009. 12. 5～2009. 12. 9 派遣先： 米国

博士後期課程1年 吉田 孟史
目 的： 49th Annual Meeting of the American Society for Cell Biologyにて発表 会議期間： 2009. 12. 5～2009. 12. 9 派遣先： 米国

博士前期課程1年 大石 昇平
目 的： International Taurine Meeting Royal Caribbean Navigator of the Seas Miami, FLにて発表 会議期間： 2009. 12. 14 ～2009. 12. 19 派遣先： 米国

平成22年度大阪大学薬学部卒後研修会のご案内

2006年度から薬学部6年制教育がスタートし、薬学部出身者に寄せられる期待は益々大きくなってきております。本研修会では薬学関係者として各方面で活躍しておられる卒業生に、最先端の医薬・医療情報を提供することを目的としております。日常生活や仕事の面で本研修会が皆様のお役に立てば幸いです。多数のご参加をお待ちしております。

	日 時	講 師	演 題
1	7月24日(土) 午後2:30～4:30	八木 清仁(大阪大学大学院薬学研究科・教授)	幹細胞の医療への応用
2	8月7日(土) 午後2:30～4:30	谿 忠人(大阪大谷大学薬学部・教授)	漢方製剤の育薬と薬育(消化器系症状に用いる漢方製剤を中心に)
3	12月25日(土) 午後2:30～4:30	春田 純一(執行役員 JT医薬総合研究所長)	HIVとの闘い ―ここまできたエイズ治療―
4	1月22日(土) 午後2:30～4:30	當麻 博文(高島国際特許事務所所員(元特許庁審査官))	医薬関連特許とジェネリック医薬について
5	2月12日(土) 午後2:30～4:30	上島 悦子(大阪大学大学院薬学研究科・教授)	感染制御と薬学
6	2月26日(土) 午後2:30～4:30	西澤 恭子(大阪府立成人病センター研究所・病理学部門長、 大阪大学大学院薬学研究科・招聘教授)	診断と治療のかけ橋 ―病理の役割―
7	3月19日(土) 午後2:30～4:30	上島 悦子(大阪大学大学院薬学研究科・教授)	がん対策とチーム医療

会 場:大阪大学中之島センター7階セミナー室 (<http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>)

参加費:無料(直接会場へお越し下さい)

*日本薬剤師研修センター認定集合研修(1単位)

*大阪府薬剤師会薬剤師生涯教育認定研修
(認定ご希望の場合は新薬剤師章をご持参下さい)

詳しくは大阪大学薬友会ホームページ
(<http://www.phs.osaka-u.ac.jp/homepage/yaku/>)をご覧ください。

世話人:

木村 以都美 (i03.ik-hercule-6980@ac.auone-net.jp)

北井 由美子 (sykr3129@agate.plala.or.jp)

北澤 恵子 (kitazawa48@nifty.com)

照井 篤子 (terui-ya@tcct.zaq.ne.jp)

藤岡 弘道 (大阪大学薬学研究科、fujioka@phs.osaka-u.ac.jp)

堤 康史 (大阪大学薬学研究科、ytsutsumi@phs.osaka-u.ac.jp)

平成22年度大阪大学大学院薬学研究科 公開講座「くすりと医療」のご案内

目 的	2006年度から薬学部6年制が導入され、薬剤師、薬学研究者の専門的かつ幅広い知識が益々必要とされている。本講座では、「くすりと医療」をテーマに、基礎から臨床までの最新の知見をもとに、現在の課題と将来への展望について、それぞれ最先端の分野で活躍する研究者が講述する。
日 時	平成22年11月13日(土)、11月27日(土)
場 所	大阪大学大学院薬学研究科 2号館4階 特別講義室
演 題 及び 講 師	○11月13日(土)
	・13:00~14:30 大阪大学大学院薬学研究科・特任准教授 前川 智弘 『水素同位体の化学—その利用と医薬品への応用』
	・14:40~16:10 大阪大学大学院薬学研究科・准教授 青山 浩 『最先端タンパク質結晶学と医薬品探索』
	・16:20~17:50 (独)国立循環器病研究センター研究所 分子生物学部・部長、 大阪大学大学院薬学研究科・招聘教授 森崎 隆幸 『幹細胞からの心筋前駆細胞の単離・疾患治療への展望』
	○11月27日(土)
	・13:00~14:30 大阪大学大学院薬学研究科・准教授 田熊 一徹 『精神疾患の新たな治療に向けて～環境因子の活用による薬物標的分子の探索～』
	・14:40~16:10 大阪大学微生物病研究所・教授、 大阪大学大学院薬学研究科・招聘教授 岡部 勝 『遺伝子操作マウスを通して見えてきた遺伝子の不思議』
	・16:20~17:50 大阪大学大学院薬学研究科・教授 中川 晋作 『感染症対策に向けた貼るワクチンの開発』
申し込み方法等	詳しくは、大阪大学大学院薬学研究科ホームページ http://www.phs.osaka-u.ac.jp/index.html をご覧ください。

大阪大学大学院薬学研究科主催 薬剤師キャリアアップレクチャー2010 開講のお知らせ

大阪大学大学院薬学研究科主催で専門領域のキャリアアップのための、講義と実習を組み合わせたレクチャーを7月10日より開講致します。
レクチャーの目的：先進医療を支えるゲノム薬理学、臨床医学工学などの基礎から応用までを、少人数制の講義と実習で学ぶことにより、臨床現場で活用できる薬剤師を養成することを目的としています。なお、日程は若干変更となることがありますので、ご了承下さい。
申し込み方法：薬剤師キャリアアップレクチャーホームページにて、お申し込み下さい。なるべく継続してご参加下さい。
薬剤師キャリアアップレクチャーホームページ<http://carrierup.academy.ne.jp/>

年 月 日	レクチャーの内容		講 師
2010年 7月10日(土)	特別講演	エビデンスを臨床に活かす	中山 健夫・藤澤 智巳
2010年 7月17日(土)	統計学の基礎		高木達也
2010年 8月21日(土)	薬剤師のための反応速度論		宇野公之
2010年 8月28日(土)	移植医療薬学特論	移植医療における臨床薬学	上野悦子
2010年 9月4日(土)	臨床ゲノム薬理学特論	循環器疾患の臨床薬理学①	藤尾 慈
2010年 9月11日(土)		循環器疾患の臨床薬理学②	藤尾 慈
2010年 9月18日(土)	最新機器分析科学特論		宇野公之
2010年 10月2日(土)	リスクマネジメント特論	医療現場における情報管理学の基礎	上野悦子
2010年 10月9日(土)	臨床医薬工学特論	臨床医薬工学の薬学的基礎①	中川晋作・岡田直貴
2010年 10月23日(土)		臨床医薬工学の薬学的基礎②	中川晋作・岡田直貴
2010年 10月24日(土)		臨床医薬工学の薬学的基礎③	中川晋作・岡田直貴
2010年 11月6日(土)	免疫調節薬		嶋 良仁
2010年 12月18日(土)	製剤学特論	製剤における薬学的基礎	相本太刀夫
2011年 1月8日(土)	再生医療科学特論	再生医療の薬学的基礎①	八木清仁
2011年 1月22日(土)	再生医療科学特論	再生医療の薬学的基礎②	八木清仁
2011年 1月29日(土)	レギュラトリーサイエンス特論	薬学におけるレギュラトリーサイエンス	平田収正・堤康史・伊藤徳夫
2011年 2月19日(土)	医療統計学		高木達也

参加可能人数：若干名 参加費・テキスト代：無料
時間：各日とも午後2時開始、午後6時終了予定です。

会場：大阪大学薬学部
(詳細は薬剤師キャリアアップレクチャーホームページにて、ご確認下さい)

・日本薬剤師研修センターの認定が受けられます。

寄付および終身会費納入者一覧

薬友会では48期生以降については終身会費制をとっていますが、それ以前の卒業生には、会費に代わってご寄付をいただくこととしております。下記の一覧は2009年8月1日より2010年5月31日の間に終身会費とご寄付をいただいた方です。ご寄付いただいた会員諸兄姉にお礼申し上げますと共に、引き続き広くご協力をお願いいたします。なお寄付は1口5,000円とし、同封の振込用紙でお送り下さいますようお願いいたします。また、終身会費をこれまで支払われていない方は、この機会に是非お納め下さい。

終身会費納入者

木野村元彦 (61) 喜多村悠加 (62) 重定 直弥 (62) 加茂 俊彦 (62) 星川 典子 (62) 榎原 正貴 (62) 松本 奈央 (62)
西川 雄樹 (62) 早崎 瑛紀 (62) 竹内ほのか (62) 阪田 彬裕 (62) 梅木 孝弘 (62) 成清 由梨 (62) 久保美貴子 (62)
村上 剛将 (62) 阪本 健也 (62) 友田 麻耶 (62) 渡部 雄二 (62) 大谷 勇太 (62) 樽田 淳樹 (62) 福島 優 (62)
柏木 悠里 (62) 倉知 孟史 (62) 塚田 陽平 (62) 石本 里緒 (62) 若林 圭作 (62) 古市 和大 (62)
山下 真季 (62) 早瀬 絢香 (62) 松村 憲佑 (62) 浅山 恵 (62) 半田 貴之 (62) 小濱 知子 (62)

寄付納入者

今村 俊三 (2) 武田 誠郎 (7) 吉田 紀子 (11) 月原 昌武 (15) 見市 博明 (18) 田邊 順子 (27) 井上 俊光 (院19)
近藤 雅臣 (2) 武田 嘉子 (7) 荒木 健伍 (12) 西原 照代 (15) 田村奈津子 (18) 佐藤 恵子 (27) 岸田 修一 (院20)
稲津 邦平 (2) 西島 真森 (7) 眞弓 忠範 (12) 岩崎 和男 (16) 山尾 彰 (18) 荻野 晴代 (27) 宮下 和之 (院27)
牛川 久雄 (3) 岩田 善子 (8) 伊藤 允好 (12) 大江 方二 (16) 山元 弘 (18) 高橋 政巳 (29) 辻川 和文 (院30)
小村 典子 (3) 川端 常樹 (8) 西原 力 (12) 鶴田 康則 (16) 岡部 勝 (19) 岩井 成憲 (30) 太田 壮一 (院30)
鴻海 茂寛 (3) 星野那智子 (8) 進藤壬奈子 (12) 森元 君子 (16) 重内 利明 (19) 玉田 裕子 (31) 牧野 泰孝 (院31)
田中 悦子 (3) 江頭 瑞枝 (9) 田中 慶一 (13) 相坂 眺 (16) 岡本 恵子 (19) 河田 恭子 (31) 九川 文彦 (院31)
竹田イサ子 (4) 門河 浩子 (9) 吉原 正彦 (13) 清水 千寿 (16) 岡本 芳彦 (19) 和田 弥生 (31) 山岡万寿夫 (院32)
麻殖生敬子 (4) 河合 令子 (9) 山内 昌茂 (13) 辻 澄子 (16) 兼岩 紀子 (20) 勝田 倫子 (32) 江口 郁 (院42)
末兼千鶴子 (4) 瀬戸(小野)義子 (9) 山下 治夫 (13) 青山 清美 (16) 森 久美子 (20) 岩元 豊 (34) 邑瀬 章文 (院44)
峯本 嘉造 (4) 武知ハルミ (9) 島田 邦子 (14) 渡部 一仁 (16) 米田真理子 (20) 西中 徹 (36) 堀 芙美 (院52)
山本 英樹 (4) 中尾(隅野)寿美 (9) 田中美枝子 (14) 植木 明廣 (17) 重内 良子 (20) 西本 昌弘 (39) 垣内 靖男 (特別)
小川 昌次 (5) 中西 勤 (9) 安本 禮子 (14) 岡 悠子 (17) 木本 茂 (21) 渡辺 美樹 (39) 飯家 公夫 (特別)
佐々木清司 (5) 西村 豊子 (9) 中西 信子 (14) 中西 俊秀 (17) 須田 文誉 (21) 橘 敬祐 (44) 北川 勲 (特別)
岩田 宙造 (6) 萬年 成泰 (9) 瑞原 貞好 (14) 馬場 明道 (17) 香月 正憲 (22) 形山 和史 (47) 小林 祐次 (特別)
小花(木郎)常子 (6) 森内 和子 (9) 内藤 猛章 (14) 笹田 清子 (17) 垣内 信子 (22) 吉川 友章 (49) 富田 研一 (特別)
佐野 安雄 (6) 桑原 淳二 (11) 山村 志郎 (14) 三浦 貞彦 (17) 橋本 雅子 (22) 中村 茂生 (51)
福永 富子 (6) 澤井 弘行 (11) 河 敬石 (14) 田村(坂本)光代 (17) 原田 信子 (22) 溝口 正 (院6)
小井田雅夫 (7) 原山 尚 (11) 今西 武 (15) 木島 正則 (18) 上田 利広 (24) 竹中 正則 (院11)
俵 湛美 (7) 九津見ミヨコ (11) 岡 眞 (15) 阪下(武貞)静子 (18) 今西 一郎 (25) 竹内 由和 (院12)
立花 正 (7) 西村 正 (11) 樋口 幸雄 (15) 玉井 康子 (18) 池洲佐知子 (27) 増井 武彦 (院13)

平成22年度薬学部および薬学研究科学生在籍数(平成22年4月1日現在)

薬学部

	定員	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	計
薬学科	25	25	25	28	26	23	127
薬科学科	55	63	62	66	57		248
総合薬学科				2	1		3
計		88	87	96	84	23	378

薬学研究科

	修士課程(博士前期)				博士課程(博士後期)				
	定員	1年生	2年生	計	定員	1年生	2年生	3年生	計
創成薬学専攻	60	88		88					
分子薬科学専攻	23		32	32	10	9	9	10	28
応用医療薬科学専攻	30		59	59	14	21	18	16	55
生命情報環境科学専攻	17		12	12	8	2	1	6	9
計		88	103	191		32	28	32	92

研究生	
学部	大学院
2	6

平成21年度卒業者の進路

	卒業生総数	進学	企業	病院	官公庁	その他
学部学生	58	55	1	0	1	1
博士前期	94	24	59	1	2	8
博士後期	21	—	11	1	1	8

薬友会役員名簿

会 長	萬年成泰 (9)
副 会 長	眞弓忠範(12) 鶴田康則(16) 大江方二(16) 馬場明道(17) 戸谷治雅(23)
理 事	今西 武(15) 鍋島俊隆(16) 植木明廣(17) 北澤恵子(17) 掛樋一晃(18) 佐伯とも子(18) 向井睦子(18) 岡部 勝(19) 山村倫子(20) 米田真理子(20) 那須正夫(21) 西川 修(21) 小林資正(22) 上島悦子(25) 土井健史(27) 池洲佐知子(27) 水口裕之(38)
幹 事 長	研究科長・学部長(小林資正(22))
幹 事	大阪大学薬学研究科・薬学部全専任教授 (庶務担当:藤岡弘道(23)、会計担当:宇野公之(特)) (名簿担当:堤 康史(39)、広報誌担当:中川晋作(特))
監 事	田中慶一(13) 山下治夫(13)
名 誉 会 長	林 信一(1)
最 高 顧 問	近藤雅臣(2)
顧 問	新田進治(2)
名 誉 理 事	濱 堯夫(2) 抱 忠男(2) 藤井正美(2) 松本光夫(2) 岩田宙造(6) 奥田順三(9) 西原 力(12)

()内の数字は期数

薬友会だよりに掲載したい原稿がございましたら、中川晋作 (e-mail : nakagawa@phs.osaka-u.ac.jp) までお送りください。